

(4) 奈良県立法隆寺国際高等学校の取組

ア 本校の概要

平成17年、前身となる斑鳩高等学校(昭和53年開校)と片桐高等学校(昭和58年開校)が統合され、法隆寺国際高等学校として開校した。現在、歴史文化科、総合英語科、普通科の3学科を設置し、我が国の歴史を深く理解し伝統文化を継承しつつ、国際社会で活躍できる資質と能力を身につけた人材の育成を目指している。

平成22年には、奈良県立高校では唯一となるユネスコスクールの認定を受け、国際理解教育、ESD(持続可能な開発のための教育)の推進校として、様々な取組や学校行事を展開している。また、海外との姉妹校交流、留学生の受け入れ・派遣を通じて国際交流を活発に行い、国際高校としての歩みを続けている。

イ WWL事業連携校としての取組

(1)創生(総合的な探究の時間)

本校では第2学年および第3学年の創生の時間を用いてSDGsに関する学習を行っている。今年度は第2学年でSDGsの概要について学び、学校内でできるSDGs達成に向けて話し合い、ポスターを作成した。第3学年においては各クラスでSDGsから達成目標を1つ選んで探究活動を行い、高校生として生徒が自分たちでできることを提言しあった。



(2)ユネスコフォーラム

毎年度1月には1年間の教育活動の集大成として、いかるがホールにてフォーラムを開催している。2年間にわたる歴史文化科独自の科目「課題研究」の研究成果や、今年度はESSやUNESCO同好会、留学生による国際理解教育にまつわる発表、WWLコンソーシアムの活動内容や第3学年で行ったSDGs学習についての発表を行った。



(3)オーストラリア・ドイツ姉妹校間交流

本校はドイツとオーストラリアそれぞれに1校ずつ姉妹校をもち、毎年度留学生の受け入れ・派遣を行っている。受け入れではホストファミリーやペアスチューデントとして学校内外での留学生のサポートを行う機会を設けている。毎年3月に行われる派遣では、日本文化紹介のための事前研修を行い、現地では授業を体験し、国際理解を深めている。今年度は世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、オンラインでの交流を行い、文化紹介を行った。



ウ 今後の課題

近年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から国際理解教育にまつわる教育活動の多くが中止となり、オンラインでの実施になっている。しかしながら、国際理解教育において、体験的な学習が効果的であることを踏まえ、今後は企業や地域社会との協力を図りつつ、異文化交流学習により一層力を入れていく必要がある。